

## 「知」の年輪を育てよう

◎いま、学校に若い教師が増えてきました。団塊の世代が退職期を迎えて、世代交代が進みつつあります。さらに安上がりな教育行政の影響で、臨時的任用や非常勤採用などの非正規雇用の教師も大幅に増えています。

◎また教師たちには、計画書や報告書の作成などのいわゆる雑務が増加し、教材研究の時間や、子どもとふれあう時間も十分確保できない状況が現出しています。そのうえ学校には職階性がもちこまれ、強化されました。その結果、先生たちの連帯の力が削がれ、授業づくりにおたがいの知恵をだしあう同僚性も失われてきています。

◎また、文部科学省は、全国統一テストによる各県の順位を公表しました。その影響で、多くの県で順位を上げろという声が強まりました。その後、統一テストが任意参加になったにもかかわらず、参加表明する市町村があいついでいます。教師たちは、成績を上げるよう努力をさらに求められ、いままで以上に暗記と習熟に専念するよう、駆りたてられてもいます。

◎一方、子どもたちには「ゆとり教育」の反動から、学習時間の増加が図られ、学校での生活も長時間になりました。

◎心ある教師が、東アジア型教育を乗り越えようと、対話を重視したグループでの学びあいに取り組む姿が、全国教育研究集会で報告されました。しかし全国的には、黒板に向かっての暗記と習熟型の東アジア型教育が支配的で、そこからの脱皮には課題が山積しています。



◎いま子どもたちに必要なのは、受動的にあたえられたことを覚える「勉強」から脱して、知的好奇心をもって活動的な「学び」を実現することではないでしょうか。

◎『ひと』誌は、1973年の創刊から、学ぶ者の視座になって教育を考えるオールタナティブな実践を生み出す努力を続けてきました。『ひと』誌に多くの先進的な授業実践者が集い、授業を発表してきました。

◎『ひと』誌は一貫して、学校や教育の閉塞にたいして、人間・社会・市民の常識にもとづいて新鮮な空気をおくりつづけてきました。

◎そこで蓄えた授業の知的エネルギーを、いまこそ、混迷を深める教師たちに、社会や市民にも、手渡す必要があると感じます。

◎『ひと』誌で活躍した教師たちの授業を「ひと」BOOKS・シリーズとして刊行し、子どもたちの学びをより豊かにしていくための一助となるようにしたいと考えています。



◎木々は寒さや暑さに耐え、年輪を刻みながら成長し、やがて巨木に育ちます。

◎教師も、子どもたちも、わくわくするような「知」の授業体験を積み重ねて、「知の年輪」を増やし、大きな巨木に育ててほしいと願っています。

◎このシリーズが、そのお役に立てることを祈念します。

「ひと」BOOKS編集委員会

## はじめに

授業をつくるときには、なるべく、子どもの身近なところにあるモノを教材に取りあげることになっています。

モノを教材化することには、つぎのような利点があるからです。

- 1—ふだん何気なく見ているモノに、現代の情報が凝縮されており、見なれたモノがもつ意外性が、子どもの知的好奇心を刺激する。
- 2—身近なモノを見つめ、問題を探ることで、活動が具体性を帯び、観念的でない学習になる。
- 3—ひとつのモノのありかたや法則性は、全体の社会現象につながる普遍性をもつ。
- 4—小さな具体物(モノ)にたいする疑問から発した学習は、共同思考を経て収束し、より質的に高いものへと昇華しうる。

つまり、子どもの現代生活の問題点が凝縮されているモノを取りあげて授業を始めることで、視点が明確に定まり、課題を具体化するのです。

また、追究する対象が身近なモノなので、子どもたちの学びは弾んだものになります。

たとえば、国産だと思っていたコンビニ弁当では、その食材がほとんど外国産で、海外からとりよせたほうが安価であること、その輸送のために膨大なCO<sub>2</sub>を排出していることがみえてきます。

コンビニ弁当に隠れている真実は、子どもたちを驚かせます。

驚いた子どもたちは、「では、ほかのモノはどうなのだろう？」と考えはじめます。

取りあげたのはコンビニ弁当ひとつですが、そこで学んだ事実は、ほかのことにも共通項をもつ、つまり普遍性をもつのです。

- ひとつを深くわかることが、たくさんを理解する手だてを得ることに
- ひとつに感動することが、もっと多くを知りたいという学びにつながると思うのです。

ですから教師は、身近なモノに普遍的な切り口を見つけ、まずみずからが感動し、この感動を子どもたちと共有したいと思うとき、そこに授業づくりがスタートするのではないのでしょうか。

そんな思いでおこなった6本の授業です。

「コンビニ弁当」の授業ではフード・マイレージに迫り、「豚肉」の授業では人間の「原罪」意識を感じ、「マグロ」の授業では世界の資源を考え、「ペットボトル水」の授業ではCMの誘導効果を見つめ、「ペットはゴミ？」の授業では人間に翻弄される動物を見すえ、「マクドナルド」の授業ではグローバル企業の実態に迫りました。

この授業のなかで、子どもたちは追究者の顔になりました。

モノから多くの情報をひきだし、仲間と対話し、吟味し、これからの生き方を考えました。モノのもつ面白さに、学びは弾んでいきました。

子どもも大人も、追究の楽しさを感じてください。

これらの授業は、子どもから大人まで、さまざまな場面でおこないました。学校では小・中・高・大の、いろんな学年におこなったものです。もし、このような授業をしてみたいと思う人は、自分の担当学年などにあわせてアレンジしてみてください。少しでもみなさんの授業のお役に立てれば幸いです。

千葉 保

## 食からみえる「現代」の授業 目次

「ひと」BOOKS・シリーズ発刊にあたって……………2

はじめに……………4

### 「コンビニ弁当」の授業——幕の内弁当のフード・マイルージ……………9

#### 1—コンビニ弁当〇×クイズに挑戦!……………10

お弁当の回転ペースはどのくらい? / 1日にどのくらい売れる? / 売れ残ったら、どうなる?

#### 2—地球3周、食材の旅……………20

幕の内弁当の食材は、どこからやってくる? / 生産地からの輸送距離は、どのくらい? / 食材を遠くから運ぶメリット、デメリット

#### 3—フード・マイルージからみえてくるもの……………30

フード・マイルージって、なに? / 日本は食糧が足りない?

### 「豚肉」の授業——お肉が食卓にあがるまで……………37

#### 1—豚の生態を考える……………38

繁殖用の豚が産む子どもの数は? / 母乳で育てるのは何日間? / よくある子豚の死亡事故とは? / どのくらい育つと、出荷される?

#### 2—豚の品種改良を考える……………45

豚はいつから、人間のそばにいた? / 人間は、豚をどう変えてきた?

#### 3—豚と日本人……………48

日本人は、どれだけ豚を食べている? / 豚肉は外国からもやってくる? / ブランド豚の開発って?

#### 4—いのちの食べ方を考える……………53

豚がお肉になるまで / 食糧? 動物? みんなでディベート!

## 「マグロ」の授業——寿司ネタの王様の知られざる現実……………59

### 1—身近なマグロの意外な事実……………60

マグロは休めない?／いちばん大きいマグロは?／昔は捨てられていたトロ／いろんな漁法がある

### 2—世界中のマグロを食べる日本人……………65

外国生まれの国産マグロ／マグロを食べる国、マグロを売る国／廃業に追い込まれる日本の漁師たち

### 3—養殖をめぐる問題……………71

高く売れるマグロって、どんなマグロ?／膨大なエサと環境汚染／できる? 完全養殖

## 「ペットボトル水」の授業——飲み水をめぐる安全とお金の話……………79

### 1—世界中で飲まれるペットボトル水……………80

いちばん飲むのはどこの国?／日本の消費量が増えたきっかけ／採水量1位の都道府県は?

### 2—水道水との違いを探る……………89

ペットボトル水の値段は何で決まる?／水道水の値段はいくら?／安全なのはどっち?／水にも「格差」がある

## 「ペットが"ゴミ"!?」の授業——いのちと責任について考える……………97

### 1—ペット犬ナンバーワン・クイズ……………98

日本のペット犬、登録数ナンバーワンの犬種は? / アメリカのペット犬登録数ナンバーワンは? / ペット犬登録数ナンバーワンの都道府県は? / 人気の名前ナンバーワンは?

### 2—捨てられた犬たちの運命……………105

飼えなくなった犬たちは、どうなる? / 「捨て犬収集車」がやってくる / 新しい飼い主にもらわれる犬たち / 殺処分される犬たち

### 3—いのちと責任を考える……………113

なぜ、犬を捨てるのか / わたしたちにできること

## 「マクドナルド」の授業——巨大ファストフード・チェーンの光と陰……………119

### 1—もうけの秘密に迫る……………120

止まらない快進撃 / もうけの手法を考えよう / マクドナルドの10の戦略

### 2—マクドナルドの光と陰に迫る……………138

いつでも、どこでも、同じサービス / アメリカのマクドナルドにひそむ6つの問題 / 日本のマクドナルドの陰の部分は?

### 3—「マクドナルド化」する日本……………147

「マクドナルド化」って、なに? / 増殖するマクドナルド・システム

## 〈オリジナルの授業をつくる手法・考〉……………152

おわりに……………157

# 「コンビニ弁当」の授業

——幕の内弁当のフード・マイレージ

「総合学習の時間に『コンビニ弁当』の授業をしてください」——そんなリクエストがあり、小学4年生に授業をすることになりました。コンビニでじっさいに買った「幕の内弁当」を教室に持ちこんでの授業です。お店が弁当を注文する流れや利益のしくみ、世界各地から運ばれてくる食材のフード・マイレージ、日本の食糧自給率についてなど、さまざまなテーマについて考えました。

今回は、90分の授業です。そのようすを報告します。



じっさいに授業で使ったコンビニ弁当

# 1—コンビニ弁当〇×クイズに挑戦!

## お弁当の回転ペースはどのくらい?

—きょうは、みんなとコンビニ弁当の授業をしようと思って、近くのコンビニで幕の内弁当を買ってきました。

こうって、弁当をだしました。その写真も黒板に貼りだしました。子どもたちはうれしそうな顔をしています。

—では、まずコンビニ弁当〇×クイズから始めましょう。グループで相談してね。

Q1. コンビニでは、コンビニ弁当をかならず10種類置くことに決めている?

「そんなことないよな」

「もっと置いてあると思うな」

「そうだよ。×にしよう」

—答えは×です。コンビニでは、20種類程度ある弁当から15種類を選んで置いているのです。

「やったあ、正解だ!」

歓声があがりました。

Q2. コンビニでは、1週間に1つ、新しい弁当がでる?

「そうかな？ そんなに新しい弁当がでるのかな？」

「わたしも違うと思うわ。1か月に1つくらいじゃないの？」

「ぼくもそう思う」

「いや、意外と○かもよ」

「そうだ。ひっかけかも」

「でも、違うと思うな」

「じゃ、×にしよう」

——答えは○です。まえの週に売り上げ第1位だったコンビニ弁当でも、新しい弁当がでると、その売り上げに負けてしまいます。お客さんは新商品を多く買うのです。だから、多くのコンビニには、1週間ごと、毎週火曜日に新しい弁当が並ぶのです。

「へえ、知らなかった」

### Q3. コンビニ弁当を運ぶ配送車は、1日に2回来る？

「えっ、もっと来てるよね？」

「そうだよ。何台も来るよ」

「でも、コンビニ弁当を運ぶ車だよ」

「それでも、3回は来ると思うな」

「これは×にしよう」

——答えは×です。コンビニには1日9台の配送車が商品を運んできます。このうち3台が弁当を運びます。最初が午前9時ごろ。午前中や昼間に販売するものを運んできます。2回目は午後5時ごろ。夕方から夜にかけて売るものを運んできます。最後が午後11時ごろで、深夜から早朝に販売するものを運んできます。

「やっぱり3回だったね」

Q4. 午前9時に配送される弁当は、深夜につくったものである？

「お弁当を真夜中につくるの？」

「それはないよね」

「これも×」

——答えは○です。弁当工場は24時間、動いています。深夜につくった弁当が午前9時ごろに配達されるのです。昼は工場の近くに住む主婦や女性たちが多く働いていますが、深夜は外国人も多く働いています。深夜労働に支えられて、コンビニ弁当のいまがあるのです。

「知らなかった。夜も弁当をつくっているんだ」

「真夜中に働いてる人がいるんだ」

「外国の人を働かせているんだ」

## 1日にどのくらい売れる？

Q5. コンビニ弁当をいくつ仕入れるかは、各店長が判断し、注文する？

「店長が注文するのかな？」

「それはそうでしょ」

「ぼくは、本部が考えてるのかと思った」

「あっ、コンビニには本部があったね」

「データを見て本部が決めるのかも」

「じゃ、これは×にしよう」

—答えは○です。いままでの販売傾向、天気、気温、曜日、会社の給料日のまえかあとか、近くの学校や地域の行事の有無、近くで工事があるか、などを総合的に判断して、店長が注文しています。

「なんだ、やっぱり店長でいいのか」

Q6. あしたは気温が高くなるという天気予報のとき、店長は、弁当の注文数を増やす？

「気温が高いと、外出する人が多くなると思うな」

「じゃ、弁当を買う人も多くなるね」

「自信をもって、○」

—答えは×です。気温が高いと、弁当よりパンが売れます。

「えっ、パンが多くなるの？」

—そう。だから、気温が高くなるときには弁当の数を減らし、パンを多く注文するそうです。給料日まえは安いパンが多く売れ、近くで工事があると、働いている人が弁当を買っていきます。学校の行事や少年野球などの試合があると、弁当が多く売れます。だから店長は、地域の情報にも気をくばっています。

また、店長は、本部のPOSシステムのデータも利用して、注文数を判断します。本部に集まるデータは、わたしたちがレジでお金を支払うときに入力されています。性別と年齢層、時刻、買った商品などの情報が打ち込まれ、データが収集されているのです。

「気温が高いと、パンが売れるのか」

「お客さんの年まで入力してる」

「何歳ですかって、聞かれたことないよなあ」

——セブン-イレブンでは、お客さんの年齢層を、12歳以下、～19歳、～29歳、～49歳、50歳以上と、分けて集計しています。レジでお金をもらうときに店員さんが、お客さんを見た目で判断して打ち込んでいるので、年齢を聞くことはないそうです。

「そうなんだ」

「お母さん、何歳にされてるんだろ」

「ちょっと知りたいな」

「若く打ち込んでもらったら喜ぶね」(笑)

Q7. 1つの店で1日に売れるコンビニ弁当は、平均100個？

「そんなに売れてる？」

「駅前のコンビニはすぐなくなるよ」

「じゃ、平均100個は○にしようよ」

——答えは×です。1つの店で1日に売れるコンビニ弁当は、平均130個です。意外と売れますね。

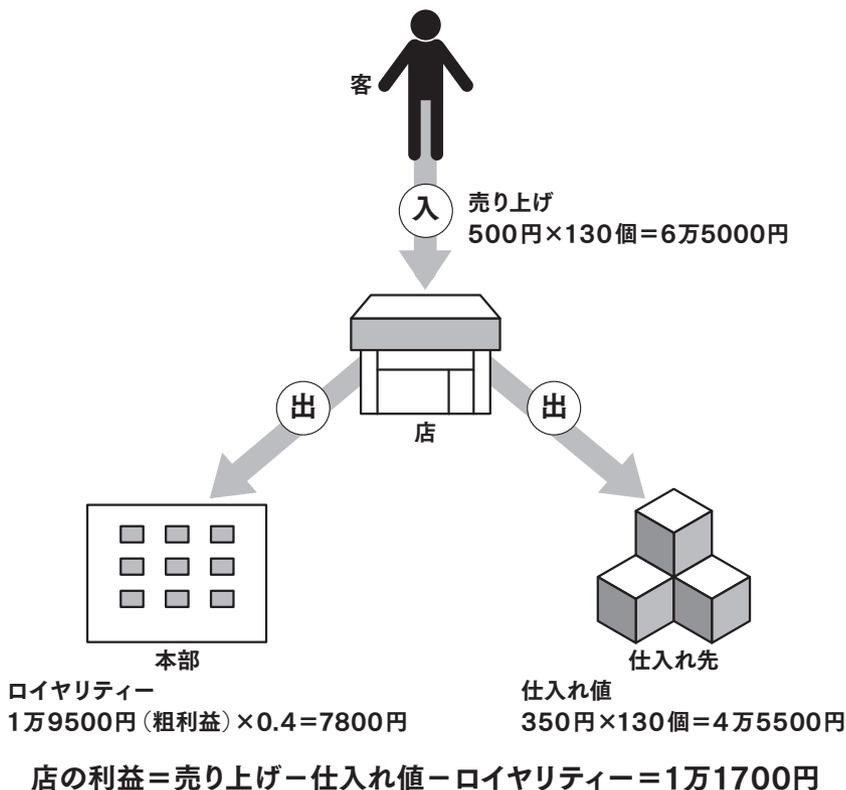
「けっこう売れてるね」

Q8. 500円の弁当の仕入れ値は、半分の250円である？

「半分くらいじゃない？ ○だと思うな」

「もうけがないと、店長さん、困るものね」

●コンビニ店の利益のしくみ



「もっと仕入れの値段が安いと、もうけが多くなるね」

「でも、安すぎる弁当は、おかげも少なくなるんじゃない？ みんな、買わないよ」

「そうだね。じゃ、○にしよう」

——答えは×です。だいたい値段の70%が仕入れ値になります。

500円のコンビニ弁当の仕入れ値は350円です。130個売れると、売り上げは $500\text{円} \times 130\text{個} = 6\text{万}5000\text{円}$ 。ここから仕入れ値 $350\text{円} \times 130\text{個} = 4\text{万}5500\text{円}$ をひくと、残りは1万9500円です。